学校番号	1005

令和２年度　情報科

教科	情報	科目	社会と情報	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	『新編・社会と情報』（東京書籍）						
副教材等	『新編・社会と情報　資料ノート』（東京書籍）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

実習を中心とした授業で、知識を深めるための座学も行います。
情報の特徴と情報社会に及ぼす影響への理解を深め、情報機器や情報通信技術に積極的に関わることのできる態度を養います。情報の収集・処理・表現する力を身につけ、効果的なコミュニケーションを行う力を養う授業です。

２　学習の到達目標

（１）コンピュータを活用して情報の収集や整理を行い、問題解決力を身につける。
（２）社会を支える情報技術の役割や影響を理解し、情報と情報技術に関する基礎的な知識と技能を習得する。
（３）情報技術の進歩が人間や社会に及ぼす影響を理解し，その特性を踏まえた適切なルールやマナー，情報の安全性などに関する基礎的な知識と技能を習得する。
（４）実習においては、コンピュータの仕組みやアプリの操作について理解し、それらを適切に活用できる力を身につける。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	社会の情報化が及ぼす影響や課題に関心をもち，問題解決のために情報機器や情報通信ネットワークを活用して，情報社会の発展に主体的に寄与する態度を身につけている。	情報通信ネットワークをはじめとする情報技術のしくみを科学的にとらえ，問題の効果的な解決策を考えることができる。	情報機器や情報通信ネットワークを適切に活用し，問題を科学的に解決していくための技術を習得している。	情報機器や情報通信ネットワークのしくみ，情報技術全般について科学的な知識を深め，社会における情報技術の役割や課題について理解している。
評価方法	・定期考査の結果４０％ （学習項目について、理解できているかを中心に評価する。） ・授業へ取り組む意欲と姿勢１０％ ・出席状況の確認１０％ ・提出物の内容４０％ （授業中における関心・意欲・態度・思考・理解について総合的に評価する）			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	情報を表現する	■情報とメディアの特徴 ・情報と様々なメディア ・伝達の仕組み ・ネットワーク ・情報の共有 ●基本操作と入力操作の習得	○	○	○	○	【a】情報化が人々の暮らしにどのような影響を与えているかについて関心を持つことができる。 【b・d】メディアの意味や特徴を理解できる。 【d】社会における情報技術の役割や課題について理解できる。 【d】ソーシャルメディアについて理解でき、その種類、特徴が分かる。 【c】文書を入力できる。	・出席状況の確認 ・提出物の内容 ・定期考査の結果 ・授業へ取り組む意欲と姿勢
		■情報のディジタル化 ・ディジタルデータの特徴 ・ディジタルの世界 ・数値と文字のディジタル化 ・画像のディジタル化 ・音と動画のディジタル化 ●文書作成に適したアプリケーションの技能習得	○	○	○	○	【a】アナログとディジタルの特徴や違いに関心を持つことができる。 【c・d】2進法、情報量の単位、各記録メディアの容量を計算できる。 【b・c・d】標本化・量子化・符号化の流れが理解できる。 【c】一般的なビジネス文書を作成できる。	
2学期	ネットワークを探索する	■情報通信ネットワークとコミュニケーション ・IPアドレスとルータ ・サーバの役割と仕掛け ・インターネットへの接続 ・情報の信頼性 ・コミュニケーション手段の発達と特徴 ■情報社会の課題と情報モラル ・のめり込みをやめる ・個人情報やプライバシーを守る ・著作権 ・情報を扱う責任 ●表計算ソフトのアプリケーションの技能習得と分析力の習得	○	○	○ ○	○ ○	【d】インターネットでは、TCP/IP というプロトコルが利用されていることを理解できる。また IP アドレスやパケット通信が理解できる。 【b・c】メディアリテラシーについて理解し、実践できる。 【a・b・c】匿名性が高い、ログが残るなどインターネット上でのコミュニケーションの特徴や注意点を理解し、上手に活用できる。 【d】表計算ソフトを使って、データを整理・分析することができる。	

3学期	情報社会の課題を考える。	■望ましい情報社会の構築 ・情報技術と仮想空間 ・情報技術と流通システム ・情報化と社会の変化 ・誰もが情報を利用できる社会 ・ディジタルデバイド ・システムの信頼性 ・問題解決 ・発想法	○	○		○	【a・d】仮想空間の情報技術について理解できる。 【d】流通システムや学習環境、生活環境で使われている情報技術を理解できる。 【b・d】ユーザに対しての配慮が重要だと理解できる 【d】システムの信頼性を保つための工夫や対策方法を理解できる。	
		●プレゼンテーションアプリを使ったプレゼンテーション技能の習得			○		【c】わかりやすい発表ができる。 【b・c】伝えることを意識した発表ができる。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。